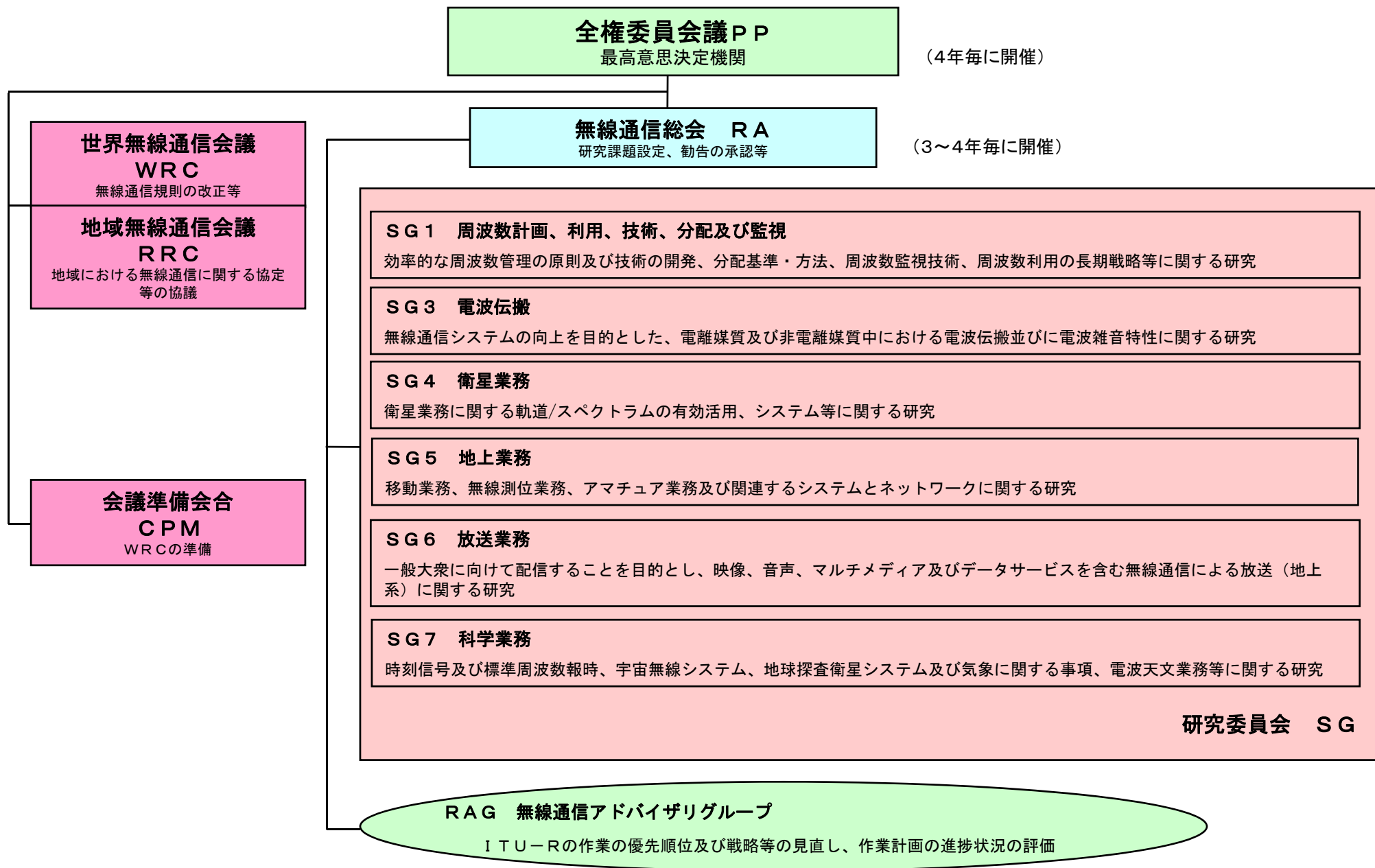


ITU-R及びITU-Tの最近の動向

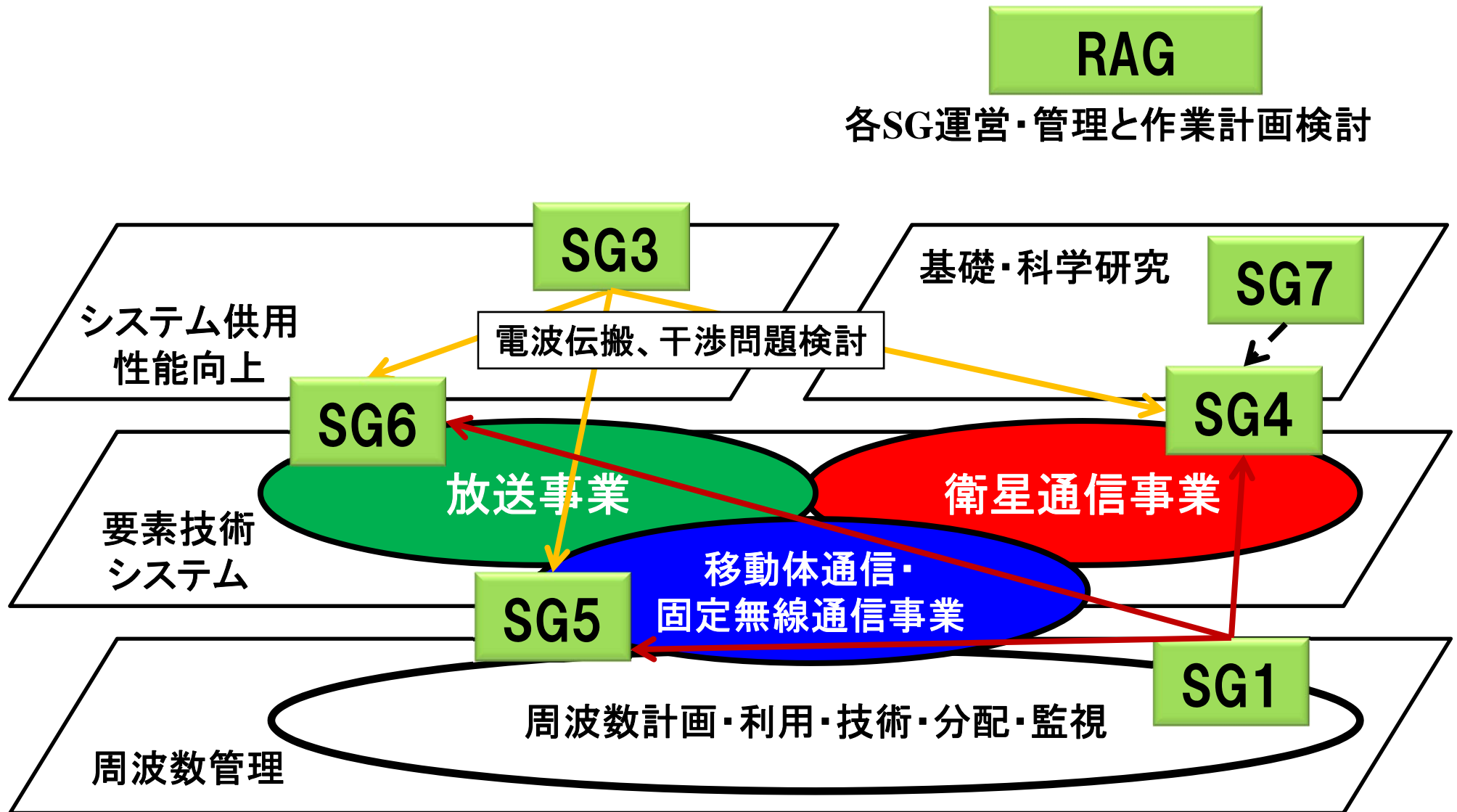
平成23年12月14日

ITU部会
事務局

ITU-Rの構成



ITU-Rにおける各SGの相関関係



ITU-Rにおける最近の動向（1）

SG1(周波数管理)

高速電力線搬送通信(PLT)の漏えい電波に関する新勧告案について、30MHz帯以下の無線通信システムへのPLTからの影響に関する検討が行われ、我が国の基準が記載された新勧告が承認された。また、ショートレンジデバイス(短距離無線通信機器)の使用周波数帯に関する世界的及び地域的な調和のための新勧告案が承認手続き中である。

SG3(電波伝搬)

電波の建物への侵入損失の建材特性等による差異を推定する方法を検討中であり、我が国からの入力文書により、不足部分の明確化や内容の見直しや測定結果に基づく簡易推定法の入力などが行われた。また屋外短距離伝搬特性に関する勧告改訂案については、適用環境の複雑化に伴い内容の充実に向けて更なる寄与が求められている。

SG4(衛星業務)

無線航行衛星業務(RNSS)のシステムの特性及び保護基準について、システムを運用する日本、米国(GPS)、フランス(Galileo)、ロシア(GLONASS)及び中国(COMPASS)からの寄与を基に、新勧告案が8件作成された(うち6件が承認手続き中)。我が国からは、準天頂衛星システム(QZSS)の諸元を盛り込む貢献を行っている。

SG5(地上業務)

IMT-Advanced(第4世代移動通信システム)の詳細無線インターフェースを定める新勧告案が完成し、RAに上程されることとなった。また、ITS(高度道路交通システム)の自動車ミリ波レーダーの勧告に関して、我が国の提案した79GHz帯レーダーの内容を盛り込んだ改訂案が作成された。また、今後我が国から提案を行う基礎となるミリ波固定無線に関する新研究課題が作成された。

ITU-Rにおける最近の動向（2）

SG6(放送業務)

我が国で開発された先進的な技術であるスーパーハイビジョン(UHDTV)に関する勧告案について審議中である。また、日本提案に基づき放送受信の保護基準に関する勧告が作成された。さらに、携帯端末向けの地上マルチメディア放送の送信方式に関する新勧告案が承認手続き中。

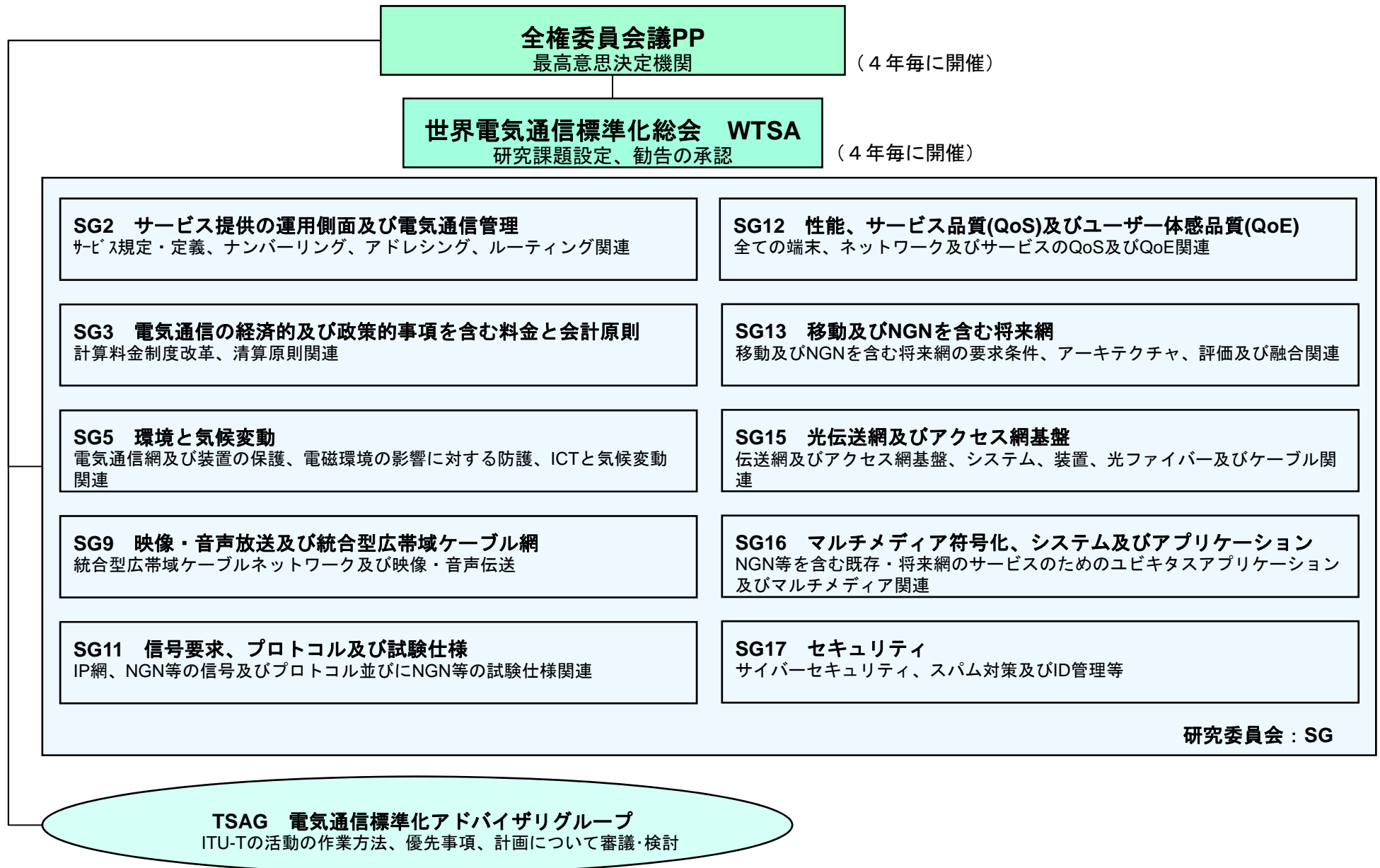
SG7(科学業務)

うるう秒の廃止を提案する勧告改訂案について、米国、ドイツ、フランス、イタリアなどが賛成している一方で、英国及び中国が反対。各国に送付した賛否に係る質問票を取りまとめた結果、新たな技術的課題は確認されず、WPにおける技術的な検討は尽くされたとして、WPに差し戻して再審議することはせず、RAにおいて承認を求めることとなった。

RAG(作業計画)

RA、SG、RAGの任務・作業方法等を定めた決議ITU-R 1-5 及びSG等の議長・副議長の任命・任期を定めた決議ITU-R 15-4 等の改訂に関する検討が実施され、具体的には、決議ITU-R 1-5 については「勧告の承認・改訂手続きに関する検討」、「勧告の定義に関する検討」等、決議ITU-R 15-4については「SGの副議長の要件に関する検討」等が行われ、RAで結論を出すこととなった。

ITU-Tの構成



ITU-Tにおける各SGの相関関係



ITU-Tにおける最近の動向（1）

SG2(番号管理)

M2Mでの番号の使用を検討している3GPP及びETSIに対して、番号の効率的な使用方法の検討を求めるリエゾンを送付した。また、グローバルハーモナイズド番号について検討を進めるため、TSB局長に、専門家による各国の緊急番号の状況調査を依頼することとした。なお、当該検討に対して日本からは、国内事情を考慮して無理強いはしないよう求める寄書を提出し、合意されている。

SG5(環境と気候変動)

ICTの利活用による環境負荷低減及びICT機器の省エネ、省資源化の観点から検討を行い、ICT機器、ネットワーク、サービスの環境影響評価手法に関する新勧告案が承認された。また、データセンターの建設・改修・運用における環境負荷を削減するためのベストプラクティスを提示する勧告が承認された。

SG9(統合型広帯域ケーブル)

放送・通信の融合という流れから、本年11月21日～25日に行われた全体会合にて、放送とインターネットアプリとの連携技術や次世代高効率ケーブルテレビ伝送方式を焦点とした多くの勧告案が審議された。その中で、次世代STBの標準化の審議も進められており、我が国より提示した次世代STBサービス・機能要求条件勧告案が他国からの支持も得てAAPコンセントされた。

SG11(信号要求、プロトコル)

NGNについて、試験フレームワークの定義、境界サブネットワークのシグナリングプロトコルと手順、サービス試験に関する新規勧告案が承認手続中。また、認証システムと機能の試験アーキテクチャに関する新規勧告案及びリソース制御プロトコルに関する改訂勧告案が承認手続中。さらに、日本のHATS推進会議の試験実施要領とITU-T試験仕様書の同期に向けた検討が実施されている。

ITU-Tにおける最近の動向（2）

SG12(QoS、QoE)

受聴品質、ICTサービスの非利用段階におけるQoSパラメータ、ホームネットワーク品質パラメータに関する新規勧告及び電気音響特性、試験信号の利用法、IPベースサービスのネットワーク性能目標等に関する改訂勧告が承認手続中。また、新たにWebアプリケーションに対する主観品質評価法の検討が開始された。

SG13(将来網)

NGN(次世代ネットワーク)及びFMC(固定移動統合)も含めたネットワークの要求条件やアーキテクチャの検討を担当している。我が国が主導して、世界で初めて将来網の全体構成に関する国際標準を完成させた。また、新世代ネットワークのためのネットワーク仮想化及び省エネルギーのフレームワークに関する勧告が承認手続中。

SG15(光伝送網、アクセス網基盤)

伝送方式MPLS-TPのOAM(保守管理)機能の標準化に関し、ITU独自標準提案及びIETFの検討に基づく標準提案の2提案の同時承認に向けた調整に関して議論が行われている。両論併記を支持する中・韓・露等とIETF案を支持する米・英・加等に対し、我が国は中立的な立場から勧告承認に向けて対処している。

SG16(マルチメディア・アプリケーション)

JCT-VC・・・Joint Collaborative Team on Video Coding

現在、ISO/IEC MPEGとの共同チームであるJCT-VCにおいて、H.264/AVCに続く、より圧縮効率に優れた映像コーデックを目指すHEVC(High Efficiency Video Coding)の標準化が行われている。2013年1月の最終合意(コンセント)に向けて、次会合(2012年4月)ではSG16主催でJCT-VC会合が開催され、各国からの提案に関する検討が行われる予定。また、我が国の提案により検討が開始されたデジタルサイネージの標準化に関しては、我が国の積極的な議論への参加により、次会合において勧告化される予定。

ITU-Tにおける最近の動向（3）

SG17(セキュリティ)

*…サイバーセキュリティ情報交換フレームワーク

現在X.1500シリーズとして勧告化が進められているCybex*勧告群のうち、基本勧告であるX.cybex(概要)、X.cve(脆弱性データベース基準)、X.cvss(脆弱性スコアリング基準)、X.cybex-disc(CYBEXディスカバリ)が本年4月及び9月の会合で承認された。我が国は積極的に勧告案を提案するなど、本シリーズの勧告化作業を米国と共に主導している。また、平成22年12月の会合では、総務省及び経産省で実施したサイバークリーンセンターのボットネット対策活動が、世界のベストプラクティスとして勧告化されるなど、我が国は情報通信セキュリティに関する標準化活動に大きく貢献しているところ。

TSAG(作業計画)

2012年11月開催の世界電気通信標準化総会(WTSA-12)まで残り1年を切ったことから、WTSAの構成及びSG再編に関する議論や関連決議及び研究課題のレビューが行われる予定である。我が国からは、SG再編に当たっての基本的な考え方を提案する予定である。また、FG Cloud及びFG Smartからの報告を踏まえ、今後の検討の進め方がそれぞれ議論される予定である。